

福知山市避難のあり方検討会第1回検討会の開催結果

1 日 時 令和元年11月12日（火）午後2時～午後4時30分

2 場 所 福知山市消防防災センター2階研修室

3 出席者 京都大学防災研究所 矢守克也 教授
 京都大学防災研究所 竹之内健介 特定准教授
 自治会長運営委員連絡協議会 土田康輔 会長
 観音寺自主防災会 小滝篤夫 会長
 福知山市民生児童委員連盟 関 三千彦 会長
 福知山市社会福祉協議会 夜久豊基 会長
 福知山民間社会福祉施設連絡協議会 廣田 真 会長
 福知山市消防団 池澤 徹 団長
 京都府危機管理部災害対策課 山本哲也 課長
 京都府中丹広域振興局企画総務部 福井景一 部長
 京都府中丹西土木事務所 角 豊一 所長
 福知山市 伊東尚規 副市長

4 内 容

(1) 検討会の設置目的と進め方について **資料1**

- ・ 検討会の目的について
- ・ 議論すべき6つテーマについて
 - ①避難のスイッチとなるどんな情報をどのようにして発信するのか
 - ②高齢者や要配慮者に情報をどのように伝えるのか
 - ③住民をどのように避難誘導するのか
 - ④避難先はどうするのか
 - ⑤避難所の受入れ体制・運営の内容はどうするのか
 - ⑥地域の災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進
- ・ 検討会の全体スケジュール

(2) 災害履歴と避難の実態等について **資料2-1～2-5**

- ・ 過去の災害履歴と避難の実績について
- ・ 平成30年7月豪雨の土砂災害発生状況について
- ・ 平成30年7月豪雨アンケート調査結果について
- ・ 谷河川流域の住民避難について

(3) テーマ①～③ごとの課題と今後の対応策について **資料3、資料4-1～4-6**

- ・ テーマごとの現状・課題・とりまとめの方向性（素案）について
- ・ 情報発信の現状と今後の方向性について
- ・ 地域における避難行動を実践していくためのマイマップ作りに取り組む大江町蓼原自治会の取り組みの状況について
- ・ 要配慮者支援事業と要配慮者利用施設における避難確保計画の策定状況について

<委員からの主な意見>

テーマ①「避難のスイッチとなるどんな情報をどのようにして発信するのか」に関して

- 今年の台風19号において、その土地にとっての最大雨量、既往最大を超えているポイントと人がなくなるような災害が起こったポイントが重なっている。福知山にとってこれからの記録的な雨、激甚化する雨に備えるというのは、どういうことなのか、記録的とは何なのか、避難とは何なのか、検討会を通じて改めて考えていく必要がある。
- たくさんの災害に見舞われている福知山だからこそ、その時の記憶や記録を有効に活用して、若い世代に災害、洪水のリスクがあることを伝えていく必要がある。
- 河川（特に由良川）については、上流にも視点を置き、どういう状況になっており、今後の水位はどうなっていくのか、こうした情報を発信していくべきである。
- 情報の数を50個から100個に増やしても、おそらく避難率は上がらない。いろいろな情報にしっかり目を向け、避難につなげるための情報、避難の決断をしてもらえるような情報とは何かということを考えていく必要がある。
- 土砂災害発生の予測は難しく、昨年7月豪雨の実績からも分かるように土壌雨量指数の最大値（既往最大値）を超えた地点を中心に発生している。こうした情報をもとにローカルエリアリスク情報の基準設定をし、発信することも重要ではあるが、それだけでは避難の実態は変わらない。その情報が地域にとってどういうものなのか理解できるような形で伝えることが必要である。
- 地域でスイッチをどういう風に設定して、どう伝えるかっていうことが一番大切であり、避難の一番基本となるため検討すべきである。

テーマ②「高齢者や要配慮者に情報をどのように伝えるのか」に関して

- 避難行動のタイムラインと避難してもらおうための声掛けの体制を地域で作っていく必要がある。
- 避難勧告が発令されている時点では、大雨になっており避難するほうがかえって危険であるというような避難するデメリットを特に要配慮者の方に伝えていく必要がある。

テーマ③「住民をどのように避難誘導するのか」に関して

- 昨年の西日本豪雨では、岡山県倉敷市の真備地区で亡くなられた方の約9割が高齢者であった。今年の台風19号も同様であることから、高齢者等の要配慮者をどのように支援するのかしっかりと検討すべきである。
- 民生児童委員が個々に作成している地域の災害時要配慮者をプロットした「災害福祉マップ」は、平常時から地域で共有することが個人情報保護の観点で非常に難しいため、今後の活用方法について検討すべきである。
- 要配慮者利用施設の避難確保計画の策定が進んでいないため、策定を支援する仕組みづくりを検討すべきである。

テーマ④「避難先はどうするのか」に関して

- 避難場所を決める時には、浸水想定区域、想定しうる最大規模の豪雨が降った場合のことを考慮する必要がある。
- 車による避難中や移動中に車ごと流された犠牲者が20名以上にのぼったとのことであり、車での避難リスクを伝えるなど、避難手段の検討が必要である。

テーマ⑤「避難所の受入れ体制・運営の内容はどうするのか」に関して

- 避難所自体が快適であることが、早期の避難につながり、おのずと人はそこに長く留まる。避難場所の居住性を少しでも上げていく必要がある。
- 福祉避難所への受け入れは、介護人材の不足と施設の安全確保、健康管理もできる場所で避難をしてもらうという状況になると、数が限られてしまい場合によっては遠方への避難になることもあり得る。課題を整理し、有効活用するための方策を検討すべきである。